

日刊建設産業新聞

世界共通で活用可能

港湾空港技術研究所

新たな液状化予測判定法

海上・港湾・航空技術
研究所港湾空港技術研究
所の佐々真志グループ長
と山崎浩之特別研究主幹

はこのほど、世界共通で
活用できる新たな液状化
予測判定法を開発した。

規模を表すマグニチュー
ドは、震源断層の破壊過
程や地震波の伝播経路、
また、地盤の特性によっ

て大きく異なるため、さ
まざまな不規則性の程度
や継続時間があることが
確認されている。しかし、
従来の液状化予測判定法
では、地震動波形の不規
則性などの現実的な影響
評価やその予測は困難と
されていた。

開発した同判定法は、
地震動波形の不規則性と
継続時間の影響評価及び
予測を同時に実現し、実
用性を向上。また、世界
各国で使われているさま
ざまなタイプの液状化予
測判定チャートにも活用
できるという。成果に関
しては、アメリカの土木
学会が発刊している液状
化研究に関して最も伝統
ある地盤工学分野の国際
誌「Journal of Geotechni
cal and Environmen
tal Engineering」にも公表され、高
い評価を得ている。

近年の東日本大震災・
熊本地震などをはじめと
する大規模で継続時間の
長い地震動の発生で、よ
り適切で合理的な液状化
評価予測に対する重要性

は、国内外問わず高まっ
てきており、今後、世界
各国での幅広い活用が期
待されている。

日刊建設産業新聞
2016年8月17日掲載